

倫理審査申請書

平成 3 年 7 月 26 日提出  
 年受付番号 172-210727

熊本リハビリテーション病院  
 倫理委員会委員長 様

代表申請者  
 所属：看護部 2 病棟  
 職名：看護師  
 氏名：渡邊 茉莉

渡  
 印

所属長の印 今永 ゆかり 印

下記の研究について倫理審査を申請します。

研究課題名  
 大腿骨骨折患者の術前後の食事管理について

共同研究者名	所属	職名
篠原 麻耶	看護部 2 病棟	看護師
守屋 由里予	看護部 2 病棟	准看護師
他 名		

概要（具体的に記載すること）

①審査対象（いずれかに○を）**①** 研究計画書 2. 学会発表原稿 3. 出版原稿 4. その他（ ）

②研究の背景と目的

骨折に伴う環境の変化で食事摂取が不良となり、必要なエネルギー確保ができていない。また、食事セッティング時に疼痛ありギャッジUPができていないことで、姿勢が悪く誤嚥性肺炎を伴う合併症発症がみられる患者がいる。誤嚥性肺炎を併発することで、手術が延期になり早期離床ができない現状がある。

③対象及び方法

対象者は 80 歳以上の大腿骨骨折の手術適応者。

入院時より独自で作成した項目をチェックし該当した患者へ対し嚥下状態（ムセがないか、トロミが必要かの判断）の確認を行い、食事形態をパターン化し食事提供する。

術前後の食事量と摂取状況を観察し、問題がなければ術後 2 日目の昼に年齢に適した食事形態へ変更し摂取状況確認する。食事形態を変更する際は管理栄養士へ相談し協力を依頼する。

上記の項目を病棟看護師へ向けて勉強会を開催し周知統一する。

データ収集方法・手順

対象患者に対し、入院時に食事の必要性を説明し、誤嚥性肺炎予防、早期離床に繋げるために食事形態を入院前の状態より食べやすい食形態へ変更し提供することを説明する。

入院時から術後まで 1 日に必要な最低エネルギー確保ができていないかを確認する。

H31 年の 6 月から 9 月までの大腿骨骨折患者の、食事形態が入院時より変更となっていないか、食事摂取量が取れているかデータ収集分析を行なう。今回の取り組みを行ない R3 年の 6 月から 9 月を対象に調査し比較する。

④実施場所及び実施機関

熊本リハビリテーション病院 2 病棟

④実施場所及び実施機関

熊本リハビリテーション病院 2病棟

⑤データ収集期間

H31年 6月 ～ H31年 9月

R1年 6月 ～ R1年 9月

R2年 6月 ～ R2年 9月

R3年 6月 ～ R3年 9月 予定

⑥研究における倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅲは必ず記載のこと）

Ⅰ 研究等の対象とする個人の人権擁護 （ 問題あり ・ 問題なし ）

Ⅱ 研究等の対象とする者に理解を求め同意を得る方法 （ 書類 ・ 口頭 ）

Ⅲ 研究等によって生ずる個人への不利益並びに危険性 （ あり ・ なし ）

Ⅳ 研究等によって生ずる医学上の貢献の予測 （ あり ・ なし ）

Ⅴ その他（Ⅱについては 当院ホームページに研究計画書を提示したオプトアウト方式で対応する）

## 「看護研究」計画書

研究者氏名	主研究者: 渡邊 菜子                      共同研究者: 篠原 麻耶 守屋 由里予
部署名	看護部2病棟
研究テーマ	大腿骨骨折患者の術前後離床開始までの食事管理について(80歳以上の高齢者へ試みて)
研究の目的	大腿骨骨折の患者に対し入院時より患者に合った食事形態と水分を摂取することで必要なエネルギーが確保できる。
研究しようとする問題の背景と動機	大腿骨骨折患者は、高齢者に多く発症し手術適応となることが多い。術前の安静指示や疼痛もあり、ベッドギャッチupが十分にできていないことまた、座位での食事摂取が困難であるため、1日に必要なエネルギーを摂取することが難しい傾向にある。入院後様々な要因から誤嚥しやすく術前より発熱し手術が延期になるケースもあった。そのため入院時より安全に必要なエネルギーが経口から摂取できるように食事形態を考慮する必要がある。病棟で独自のチェックリストを活用することで患者にあった食事を看護師が選択でき、1日に必要なエネルギーが確保できるように介入していく。
研究の意義	入院時より水分や食事形態を考慮し患者に合った食事を提供するためにチェックリストを作成し活用する。術前に必要なエネルギーを経口から摂取し、手術がスムーズに受けられ術後の早期離床に繋げる。
研究方法	1) 研究デザイン    実験的研究(前後比較試験)
	2) データ収集期間 ①R1年6月～9月 ②R2年6月～9月 ③R3年6月～9月で比較
	3) 対象者 調査期間でチェック表導入前後の患者を対象とした。対象の条件として80歳以上の大腿骨骨折患者(手術適応)
	4) データ収集方法 診療録より情報収集を行いチェック表導入前後で入院時からの食事摂取量を比較する。また経過表から発熱の有無も確認し比較する。
	5) データ分析方法 収集したデータは食事摂取量の比較、発熱の有無で比較する。
結果公表 院内・院外	熊本リハビリテーション病院
対象者への倫理的配慮	得られたデータは本研究のみで使用し、データの管理及び破棄を確実にを行う。
その他	

※対象者への説明文書、同意書、アンケート用紙等を作成し添付する